

New 新着資料
紹介

『空を泳ぎたかった魚の話』

『空を泳ぎたかった魚の話』は、神戸大学在学中に阪神・淡路大震災でお亡くなりになった上野志乃さんが大学の課題で制作したパラパラ絵本です。

志乃さんは佐用町で成人式に出席した後、友人と大学の課題をする約束をしていたため、1月16日に神戸市灘区のアパートへ帰宅。17日の朝方に課題が終わり、寝ているときに被災しました。震災後、志乃さんの父、政志さんが倒壊したアパートでこの絵本を見つけました。海にいた魚がこいのぼりになり、家族で空を泳ごうとするお話です。

寄贈者である「空を泳ぎたかった魚の会」は、上野政志さんとこの絵本を復元し、学校などへ寄贈しています。志乃さんの生きた証であるこの絵本を通じて、震災を知らない世代が命について考えるきっかけをつくる取り組みを進めています。

2冊寄贈いただいたため、1冊は二次資料として受け入れ、みなさんに自由に手に取ってもらえるよう資料室「ぼうさいみらい子ども文庫」に配架しています。

「空を泳ぎたかった魚の会」HPはこちら (<https://sorawo117.amebaownd.com/>)



資料番号：0000553-000001



寄贈の様子



資料室の感染防止対策について

資料室は、感染防止対策をとりながら開室しております。資料室利用者の皆様には、引き続き、感染防止のご協力をお願いいたします。

映像資料視聴をご希望の方は
イヤホン(有線)をご持参ください。



無線イヤホンには対応していません。

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな?」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL <https://www.dri.ne.jp/>
開室時間 9:30~17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute



Vol.80

2023年
3月発行

資料室ニュース

企画展



「ひと・知恵つなぐ『ぼうさいこくたい』」を
開催しています!

資料室では、2022年10月22日、23日に行われた「ぼうさいこくたい2022」を振り返る企画展を、2023年5月28日(日)まで行っています。



二次資料特設コーナー

「ぼうさいこくたい」についての記載のある二次資料と、大会当日に配布された出展団体のチラシをご覧いただける特設コーナーを設置しています。

トライやるウィークで来ていた神戸市立義務教育学校港島学園の2人がコーナーを作ってくれました。

港島学園の 生徒さんの声

「普段見ることができない収蔵庫に行くことができ、とても楽しかったです。収蔵庫では、保存するためのこだわりがあるのを知ってびっくりしました。「後世に残したい!」と思っているからこそ、厳しいルールを守っていけるのだなと思いました。たくさんの貴重な体験ができて最高でした。特に、特設コーナーの設置に関わったことが本当に嬉しかったです!」



「小学生の時に来た時よりもいろいろな工夫がされていて最初は驚きました。資料室は落ち着いた場所で、ゆったりと仕事をさせてもらいました。収蔵庫に行ったとき、驚いたのは管理方法です。「こんなことまで!」と思うことは、実は表の展示などではとても大切な役割をしていたことに気づきました。観覧者として気づけないことにたくさん気づけて、貴重な体験になりました。」

他機関との連携

資料室では、センター所蔵資料を活用し、阪神・淡路大震災の記憶を広く伝えるため、また、資料の保存方法やワークショップの手法など、直面する様々な課題を解決するために、視察や震災資料の貸出などを通して、全国の様々な機関と連携をしています。

今回は、連携内容の一部を紹介します。



資料検索システムの連携

国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）とは、「東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ」をコンセプトとして2013年3月から公開されているポータルサイトです。当センターとは2021年10月より連携を開始しました。全国の様々な機関と連携・協力している「ひなぎく」では、当センター所蔵資料だけでなく、多様な震災アーカイブの資料を一度に検索することができます。



毎年1月には、トップページで阪神・淡路大震災特集を組んでおり、当センターからもそこで掲載される写真を提供しています。

ひなぎくトップページより転載
(<https://kn.ndl.go.jp/#/>)

2023年1月16日～30日掲載

他機関によるセンター視察

「JICA（国際協力機構）研修」2022/12/7

西館・東館の展示の見学後、バックヤードツアーを実施しています。バックヤードツアーでは、収蔵庫に入り、常設展示では見られない震災資料をご覧いただくほか、人と防災未来センターに寄贈された資料が持つエピソードや、資料をより良い状態に保つための工夫や苦労話をご紹介します。

国立民族学博物館が協力しているJICAの研修では、例年、バックヤードツアーを実施しています。コロナ禍のため、今回は2年ぶりの開催となりました。



震災資料の貸出と他機関への視察

「名古屋大学減災館」



貸出資料
溶けた硬貨（缶入）（4700349-001002）（左）
溶けたガラス食器（4700349-001001）（右）



名古屋大学減災館は、産官学民による地域に密着した連携の構築など、巨大災害や近年頻発している風水害の被害を軽減するための研究を行っている施設です。

2022年11月9日（水）から2023年1月27日（金）に開催された特別企画展「まちづくりと都市火災」では、当センターより貸し出した震災資料も展示されました。関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災など自然災害時に発生した大規模火災の事例を紹介しており、地域の消防と防災について考えるきっかけとなりました。

災害関係機関以外との連携

「兵庫県立歴史博物館」

現在、兵庫県立歴史博物館の展示に当センターの震災資料が活用できるよう協議を行っています。担当の学芸員が元震災資料専門員だったこともあり、お声がけいただきました。

県立歴史博物館は郷土の歴史に関する県民の理解を深めるための施設です。震災資料の活用が実現すれば、兵庫県の歴史を古代から紹介していく展示の中で、県の歴史的な出来事のひとつとして、阪神・淡路大震災を伝えることができるのではないかと考えています。



貸出予定資料
資料番号：0000252-000001（左）
0000248-000001（右）

河田 コレクション展 文庫

2023年3月11日から河田文庫内で開催

河田文庫には、河田恵昭センター長より寄贈された防災に関する資料約3000点が所蔵されています。河田文庫コレクション展では、期間ごとにさまざまなテーマで展示を行います。第2回目となる今回は、「津波一調べる・記録する」というタイトルで河田文庫資料から河田センター長の調査活動についてご紹介します。

今回の企画展では、1998年7月に発生したアイタペ津波災害の被災地調査写真を展示します。1998年7月17日、パプアニューギニア西セピック州沖で発生したマグニチュード7の地震に伴う津波が、同州のアイタペ付近に襲来。高さが最大15mにもなったこの津波では、2000人以上の方が犠牲となりました。

